



発行 宮崎県立高鍋高等学校同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」会長

岩切 正司



宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
また日頃より、同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症が確認され丸6年が経ちましたが、未だ完全収束には至っておりません。
また相次ぐ世界的な利権争いの紛争、そしてあらゆる物価等の高騰により我々の生活環境、また同窓会の運営面など何かと支障をきたしております。いままし

も早く以前の生活環境に戻れることを切に希望するところです。
令和7年度、毎年恒例であり同窓会事業最大の行事である高鍋高校OB祭は、次の新時代への一歩を踏み出していく中で、これまでの歴史と伝統を継承しつつも時代の流れに沿った取り組みを展開し、世代を超えた「鳴海ヶ丘会」会員相互の親睦と交流を深め一層の充実と発展を目指し、また在校生と同窓生同士のつながりを再認識構築させ母校の繁栄と地域の繁栄に寄与するとの想いから「愛×夢×そして故郷を想う」をメインテーマに掲げ小倉啓太実行委員長を中心に

平成14年卒業生の皆様が担当しました。
またOB祭事業のひとつとして地域の皆様と一緒に観覧することができ「記念花火」を打ち上げました。この取り組みは地域やOBの皆様への感謝の気持ちを伝えるとともに、同じ花火を一緒に見上げ、感動を共有することで世代や枠組みを超えて皆の心がひとつにまとまるよう、そして高鍋高校OB祭が一層地域に愛される事業となるようとの想いが込められておりました。
同じ学び舎で苦楽を共にした卒業生達が、24年の時を経て、それぞれが歩んできた経験を活かし、一致団結して取り組み、見事なOB祭を開催してくれました。
そしてそれは高鍋高校の伝統と誇りを次世代の後輩たちへ次の第一歩に向けて立派に受け継がれていくと確信しました。
担当学年の皆様は、この経験を機に「ステップ」に向けてさらに頑張りたいと心から願うところでもあります。
現在、高鍋高校への進学者が少なくなってきた背景には少子化はもちろんです、他校への進学希望者が多くなっていることも事実です。文武両道、歴史と伝統の高鍋高校プライドを復活させるために、我々同窓会も学校と共に今後何らかの策を考えて行動していかなければなりません。
これからも同窓会会員の皆様のご支援ご協力そして貴重

なご意見等を賜りながら歴史と伝統を大切に、同窓会会員間の親睦はもとより、学校そして地域に貢献できるような活動してまいります。

令和8年度OB祭 実行委員会 事務局長

坂敬章



鳴海ヶ丘会の皆さま、こんにちは。令和8年度のOB祭実行委員会にて事務局長を務めます、坂敬章と申します。
倉永実行委員長の挨拶の通り、私たちのテーマは「笑和」です。このテーマには、「私たちが多感な時期を過ごした高鍋高校での思い出、そして今この時代だからこそ大切にしたい「笑顔」と

「人の和」への願いが込められています。
昨年度、先輩方が作り上げたOB祭の感動を間近で拝見し、そのバトンを受け取る責任の重さを改めて感じています。特に、音楽と共に夜空を彩った打上花火は、私たち後輩世代にとっても「同窓会の力」を見せつけられた、忘れられない光景でした。

事務局長としての私の役割は、倉永委員長が掲げるこの「笑和」というビジョンを、着実に形にしていこうとします。OB祭は、単なる一日限りのイベントではありません。準備の過程で久しぶりに集まる仲間たちとの再会や、世代を超えた新たな出会い。その一つひとつが、まさに「笑和」の体現であると考えています。
同窓生の皆が、肩肘張らずに「ただいま」と言える場所を作ること。
「あの頃」に戻って大笑いできる、風通しの良い運営を心がけること。
これらを目指し、OB祭本番に向けて、実行委員メンバーと共に一つひとつ丁寧に準備を進めてまいります。
開催にあたりましては、広告協賛や当日のご参加など、会員の皆さまには多大なるご支援をお願いすることとなります。皆さまの温かいお力添えが、この「笑和」の輪をより大きく、確かなものにしていきます。
OB祭当日は会場のあちこちで、当時のあだ名で呼び合う声や、絶えない笑い声が響き渡ることを事務局一同、心より楽しみにしております。皆さまと笑顔でお会いできる日を糧に、精一杯邁進してまいります所存です。

事務局からのお知らせ
同窓会学校担当 檜室 秀幸
〇明倫奨学金報告とお礼について
明倫奨学金に多くの有志の方々より寄付を賜り、誠にありがとうございます。この奨学金制度は皆様の寄付金によって賄われております。どうか今後

とも変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。
令和7年度明倫奨学金寄付者 (令和7年4月以降)
高鍋高校関西同窓会
高鍋高校川南支部会
昭和44年卒業生
昭和59年卒業生同窓会
敬称略
※寄付者の公表は、同窓会支部OB祭実行

委員会 卒業生一同様に限らせて頂いておりません。企業及び個人の寄付者の公表は行っていません。
(1)高鍋信用金庫
銀行名 高鍋信用金庫本店(店番号001)
口座番号 1360949
口座名義 高鍋高校同窓会 青英会
代表 岩切 正司
※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みください。

(2)ゆうちょ銀行
銀行名 ゆうちょ銀行
口座番号 0170019141513
加入者名 宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」
※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みになるが、事務局が用意いたしました専用払込取扱票をご利用ください。
1企業・4団体・8個人

Table with 2 columns: 氏名 (Name) and 役職 (Position). Includes 倉永 圭祐 (Executive Director), 甲斐 宣行 / 小田 裕二 (Deputy Executive Director), and 坂 敬章 (Director).

笑和
今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
Illustration of a group of people smiling.

令和7年度 高鍋高校 OB祭実行委員会 実行委員長

小倉啓太



令和7年度OB祭開催に際しまして、多方面からの協賛・募金・支援誠にありがとうございました。

計画段階から様々な方からのアドバイス・支援をいただき進めて参りましたが、無事開催に漕ぎつけられましたのもみなさまのお陰だと考えております。

さて令和7年度のOB祭ですが、「愛×夢」そして故郷を想う」をテーマに母校愛・故郷愛の構築及び、夢実現を謳い文句とし、様々なイベントを企画して参りました。

その中で先輩からの踏襲に加え、自分たちの色を出そうという事で様々な変化をつけました。

1つ目は、秋開催です。秋開催にすることで、ゴルフ、イベントへの参加者のストレスを軽減し、OB・OGはもとより生徒、地域の方々が参加しやすいイベントとなりました。具体的には酷暑が騒がれる中でのゴルフコンペの無事故開催、体育館での

講演会開催及び高鍋高校での花火観覧です。

「夢実現のために」をテーマにラグビー選手、女子ホッケー選手をはじめ、令和7年度OB祭実行委員の同窓生で様々な分野で自分の目標、夢を叶えた方たちが自身の高校生時代のエピソード等を交えながら夢実現に必要なフアクトを高校生に語り掛けるイベントを開催しました。

3つ目は、地域創生です。児湯郡に根差したキッチンカー、飲食販売及びワークショップを招き、地域の魅力を再認識する「たかなべフェス」を開催しました。

先輩方が行ってきた母校支援をさらに発展させつつ、上記の自分たちの色を加え価値あるイベントになったと考えています。イベントの最後には美術部の生徒とコラボイベントである「音楽シンクロ花火」で締めくくり、大盛況のうちに閉幕を迎

えることができました。私たちは運営側でしたが、ゴルフ会場、たかなべフェスの飲食ブース、花火観覧会場では多世代の交流が生まれ、いたるところに笑顔が見られ、幸せな気持ちになったことを思い出します。花火終了後には、地域の方々、先輩方から労いの言葉をいただき、中には感動の涙を流しながら感謝を伝えてくださる方もおり、同級生で達成感と高鍋高校の一体感を感じることができました。

令和8年度 高鍋高校 OB祭実行委員会 実行委員長

倉永佳祐



令和8年度高鍋高校OB祭実行委員長を務めさせていただきますことになりました倉永佳祐と申します。実行委員を代表してご挨拶申し上げます。

昨年年度は、小倉啓太実行委員長のもと、「愛×夢」そして故郷(ふるさと)を想う」というテーマが掲げられ、同窓生

という故郷への想いを改めて感じることのできる、心に残るOB祭が開催されました。世代を超えた交流や、久しぶりの再会の場面に触れ、高鍋高校同窓会の絆の深さを実感した次第です。

また、在校生と一緒にデザインした打上花火は音楽にのせ、秋の夜空いっばいに広がりました。先輩方の1年の準備の集大成ともいえるあの時間とあの感動は、今

年度引継ぐ我々の心にもしつかり残りました。その想いを引き継ぎ、私たちが令和8年度実行委員会が掲げたテーマは「笑和(しょうわ)」です。私たちは昭和五十九年生まれ、いわゆる「昭和生まれ」ではありますが、青春時代を過ごしたのは平成の真ただ中でした。部活動に打ち込み、放課後に語り合い、時にはくだらないことで大笑いした日々。振り返ってみると、決して特別なことではないけれど、今も自然と笑顔がこぼれる、かけがえのない思い出ばかりです。

そんな思い出を共有できる仲間が集い、当時の話を花を咲かせ、気がつけば輪が広がっていく。「笑う」の笑に、「平和」の和、そして昭和生まれの私たちの「和」。世代や立場を越えて笑顔と和が広がるOB祭にしたいという想いを、この「笑和」という二文字に込めました。

形式ばった行事というよりも、久しぶりに顔を合わせ、当時に少し戻ったような気持ちでワイワイ語り合える、同窓会の延長線上にあるOB祭を、実行委員一同、楽しみながらつくっていきたくと考えております。

現在、十一月の開催に向け準備を進める中で、多くの方々の支えとご協力を実感しております。当日は、懐かしさと笑い声に包まれる一日となることを願っておりますので、ぜひ多くの同窓生の皆さまにご参加いただければ幸いです。

結びに、鳴海ヶ丘会ならびに高鍋高校のさらなる発展と、会員の皆さまのご健勝を祈念するとともに、OB祭への変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

「同窓会育英会表彰」代表者

松永 雄太 柴下 麗愛 金崎 珠久 小西 凜佳



内容	学級	生徒氏名(上段:ふりがな、下段:名前)
同窓会育英会会長賞(普通科)*	3年1組	まつなが ゆうた 松永 雄太
	3年5組	しばした れな 柴下 麗愛
同窓会育英会会長賞(探求科学科)	3年6組	かなざき みく 金崎 珠久
同窓会育英会会長賞(生活文化科)	3年7組	こにし りんか 小西 凜佳

*301~303から1名、304~305から1名選出

クラス代表世話人

クラス	評議員	生徒氏名(上段:ふりがな、下段:名前)	評議員	生徒氏名(上段:ふりがな、下段:名前)
3年1組		はしくち なおき		おにつか たまみ
		橋口 尚季		鬼塚 珠実
3年2組		おおつか たつろう		くるぎ しゅん
		大塚 健郎		黒木 駿
3年3組	○	ほんだ ゆうと		さかのした れな
		本田 悠人		坂之下 玲菜
3年4組		ひらはら よしみ		みわ のぞみ
		平原 美海		三輪 望実
3年5組		どばし りょうた		いなだ ゆな
		土橋 亮太		稲田 祐奈
3年6組		くるぎ かける	○	べっぷ こむぎ
		黒木 翔		別府 胡麦
3年7組		おがわ ゆな		くりき なほ
		小川 優奈		栗木 南帆

令和7年度部活動実績一覧

明倫部(和太鼓)	第49回全国高等学校総合文化祭(かがわ総文祭2025) 郷土芸能 和太鼓部門 優良賞
	第47回宮崎県高等学校総合文化祭 郷土芸能 和太鼓部門 最優秀賞
音楽部	第49回全国高等学校総合文化祭香川大会 合唱部門 「全国高総文祭選抜賞」
美術部	第47回宮崎県高等学校総合文化祭美術部門 特選(全国大会推薦) 永友 滯(202)
	第47回宮崎県高等学校総合文化祭美術部門 特選(全国大会推薦) 都原 大翔(205)
文芸部	第47回宮崎県高等学校総合文化祭 文芸部誌部門 奨励賞
	第47回宮崎県高等学校総合文化祭 散文部門 優秀賞 長埜 蓮(301)
ラグビー部	105回全国高等学校ラグビーフットボール大会ベスト16
ローイング部	第37回全国高等学校選抜競漕大会九州地区予選 優勝
	男子ダブルスカル 優勝 堀北 大悟(102)・友草 清海(103) ※3月の全国選抜大会出場
ホッケー部	令和7年度 九州高等学校総合体育大会 ホッケー競技大会 3位
	令和7年度 全国高等学校総合体育大会 ホッケー競技大会 ベスト16
	令和7年度 国民スポーツ大会第45回九州ブロック大会 準優勝
剣道部	令和7年度宮崎県高等学校新人総合体育大会 剣道女子個人 3位 河津 未和(201) ※2月の九州選抜大会出場
	令和7年度玉竜旗剣道大会 敢闘賞(5人抜き) 石井 輝星(304)



花園を終えて

ラグビー部主将 光武 龍平

私たちがラグビー部は、第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場し、ベスト16という結果でした。

私は、初戦の岩手県代表の盛岡工業との試合で肉離れをしてしまいました。正直、絶望でした。「治療して、テーピングをきつく巻けば出れるかも」と言われましたが、どこまで治るかわからず可能性も低いものでした。その時、チームメイトから「絶対勝って出させてやるから」と言われました。とても嬉しく、諦めかけていた自分を救ってくれる一言でした。その後、運動が出来るところまで治すことができず試合に出ることはできなかったけれど、皆がラグビーをしている姿を見るだけで楽しかったです。第一グラウンドの芝を踏むことはできなかったけれど、それ以上



に皆と正月を花園で迎えられたことが嬉しかったです。ここまで連れてきてくれた皆様には、感謝しかありません。本当にありがとうございます。そして、サポートしてくれた多くの方々にも感謝しています。ありがとうございます。

な思いました。今のままでは九州・全国では勝ち上がることはできないと思います、より一層気持ちが入った稽古をするようになりなりました。その中でくじけそうなきや自分の弱さが出てきそうになる時がありました。が、周りを見ると次の大会に向けて必死になっている仲間の存在が私を奮い立たせてくれました。

九州選抜大会出場にあたって

剣道部 河津 未和

私は新人戦の女子個人で3位入賞し、2月に熊本県で行われる九州選抜大会の出場権を得ることができました。20分を超える延長戦で息が上がる中、自分のやるべきことを徹底して、勝利を掴むことができた。上位大会への出場が決まった時は、喜びが沸き上がるというより、身が引き締まるよう

に進んでいきます。これまでの感謝を込めて、その舞台に立つのにふさわしい選手となれるようこれからも精進していきます。

なんきんはぜ

OB職員として参加した引き継ぎ会で、2つ上の先輩方が「辛かった」と言われていた。その「辛さ」の理由が知りたくて、私は実行委員をすることに決めた。1つ上の先輩方のOB祭に参加し、「私もこれがやりたい」と思った。これだけじゃなく、あれもこれもやりたい。もう始めないと間に合わない。はやる気持ちで先輩方の引き継ぎ資料を読み込んだ。2つ上の先輩方の引き継ぎ資料。とても緻密で、資料を作成するときはいつも去年のものとセットで確認した。その資料からは「OB祭を変えたい」という思いが伝わった。共感した。先輩方の思いも自分なりに引き継ぎたいと思った。

1つ上の先輩方。お忙しい中に何度もお時間をいただき引き継ぎをしてくださった。在学中あまり話したこともなかった同級生たちと久しぶりに会って会議を重ねる。最初は気を遣いながら話していたけれど、共有しなければならぬ気持ちが多すぎて、毎日のように連絡を取り、いつの間にか何でも言える存在になっていた。約15ヶ月の準備期間。仕事や家庭で上手いかわからないとき、OB祭の準備時間や同級生たちが私を支えてくれた。OB祭当日。企画したたくさんのイベントがひとつひとつ終わるたび、ほっとして涙も出なかった。

私は何が辛かったか。15ヶ月間、「わかり合えない」瞬間が多々あった。色んな世代の、色んな人生を歩んできた人たちと価値観をすり合わせることの難しさ。OB祭が終わってもその辛さは続いた。色んな価値観を持つ異業種の同級生たちと1つのイベントを締めくくり、次世代に引き継ぐことの難しさ。仕事では決して味わえない経験だった。そんな中で「繋がった」と思えた瞬間もたくさんあった。「繋がった」瞬間は奇跡だったのだと、今は思う。その奇跡にはたくさんのお優しさがあつた。私を受け入れようとしてくれた同級生たち、鳴海ヶ丘会の皆様、たくさんのご協賛。ご寄付をくださった企業や団体の皆様。その優しさに甘えて、「繋がった」瞬間は「自分の気持ちが通じた」とただ嬉しかっただけだったけれど、数え切れないほどの優しさに包まれてOB祭を実施させていただいたのだと深く感謝している。先輩がOB祭の準備を始めたとき聞いた。私は今年いただいた優しさを後輩たちに一番に引き継ぎたい。私と同じように、後輩たちがやりたいと思ったことが全てできるといいなと願う。「繋がった」と思える瞬間に、後世の後輩たちがたくさん立ち会えるように、これからもOB祭はどんどん変わってほしい。

布留川 文

